

4. 東大雪地域における公園利用上の現状と課題

計画調査の結果から、東大雪地域における公園利用上の現状と課題について整理する。

4-1. 地形的・地理的条件

大雪山国立公園は、北海道の中央部に位置し、日本最大の国立公園である。公園面積が広大であることに加え、東大雪地域は札幌や旭川、帯広等の都市圏からアプローチがやや長く、表大雪や十勝連峰に比べて興味地点等までの到達にやや時間がかかる。これらの特性を生かした利用の方策が求められる。

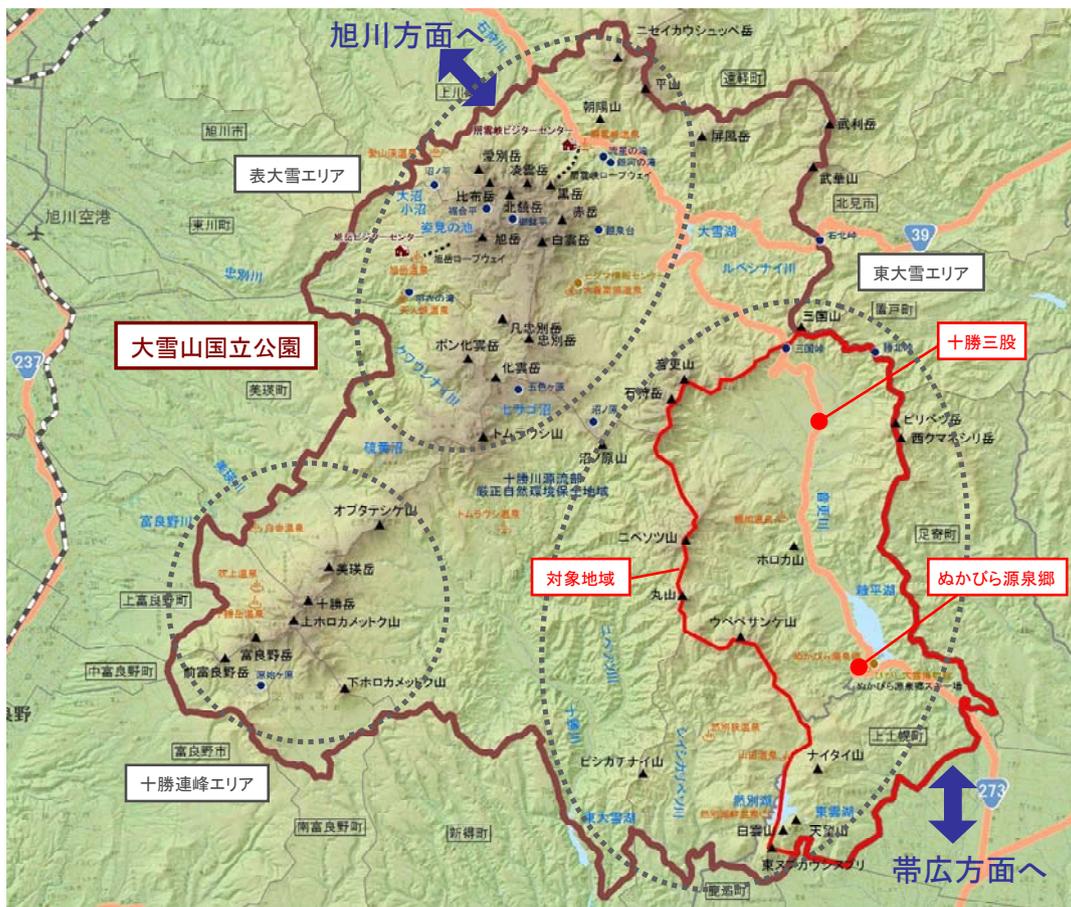


図 4-1 東大雪地域の地形的・地理的条件

4-2. 公園利用における情報発信の必要性

東大雪地域は、石狩連峰、ニペソツ山、ウペペサンケ山など急峻な山岳がそびえ、それらの周囲には広大な北方系針広混交林の樹海が広がり、多様な動植物が生息・生育する原生的な自然環境が残されており、奥深い自然を体験することができる。また、自然環境だけでなく、旧国鉄士幌線のコンクリートアーチ橋など、周囲の自然環境と調和した産業遺産が残されており、東大雪の魅力の一つとなっている。

しかしながら、自然学習や自然体験、自然環境保全の推進の拠点機能を有するビジターセンターは、大雪山国立公園では層雲峡と旭岳温泉の2箇所を設置され、主に表大雪側の利用者を対象

としており、地理的・利用導線的にこれらのビジターセンターで東大雪側の利用者を対象とすることは現実的ではない。東大雪側にも利活用メニューや自然体験メニュー等があるにも関わらず、自然学習や自然体験、自然環境保全の推進についての情報発信が不足している。

中でもぬかびら源泉郷地区は、旭川側と帯広側とを道路で結ぶ中間地点にあり大雪山国立公園の東大雪地域の入口であること、東大雪地域で最大の利用拠点及び宿泊拠点であり、NPO法人等による自然ガイドや鉄道遺産の保全・活動、源泉かけ流し温泉を核とした地域活性化に向けた地域の活動等多様な主体による取り組みが行われており、これらの活動を情報発信する拠点機能が求められている。

4-3. 多様な利用形態・利用者層への対応

東大雪地域における主な利用拠点であるぬかびら源泉郷地区の宿泊形態では、旅行エージェントを中心としたツアー客が減少し、個人型旅行へと変化している。利用ニーズでは、石狩連峰・ニペソツ山・ウペペサンケ山等への登山の他、宿泊しながら1～2時間程度の自然散策や北海道自然歩道を活用した鉄道廃線跡探索等を楽しむ利用ニーズの増加や日帰り利用者も多いことから、多様な利用形態・利用者層への対応が求められており、短時間利用滞在型の利用ニーズに応じた利用空間の確保が求められている。

4-4. 既存資源の有効活用

東大雪地域には、恵まれた自然や歴史等の資源があるが、ぬかびら源泉郷地区等において誘導標識等の案内機能が不十分なため、十分に活用されていない既存資源がある。魅力的な資源は存在しているため、それら資源を損なわずに利用者が利用できるよう、適切な誘導や維持管理を図っていくことが求められている。

4-5. 生物多様性の確保に向けた取組

国立公園は、日本の生物多様性の屋台骨の役割を担っている。東大雪地域においても、地域における優れた自然生態系を将来にわたって維持・保全するため、自然学習や自然体験、自然環境保全の推進等の活動を行う体制作りが求められている。